

## 片岡香川大学副学長がシラクチカズラの資源管理協定に係る現地指導を実施しました

平成30年6月13日  
徳島森林管理署

平成30年2月、徳島森林管理署、三好市、香川大学農学部の3者で、三好市の『木の文化』の象徴である祖谷のかずら橋と奥祖谷の二重かずら橋の架け替え資材であるシラクチカズラの資源管理と、その実の活用を目的とした協定を締結しました。

架け替え資材であるシラクチカズラについては、これまで様々な形で増殖を試みてきましたが十分な成果を得ることができずにいました。

このため、6月13日に片岡香川大学副学長(前農学部長)に現地指導にお出でいただき、シラクチカズラの増殖における課題などについて指導を受けました。



オスのシラクチカズラの見分け方を学びました



1年生の枝を挿し穂として採取

挿し穂づくりでは、挿し穂は小さく柔らかい葉が付いている先端部を除き、10～15 cm程度の長さに新梢を切り取り、挿し穂に2葉を残し、葉身は2/3を残し先端部を切り取り、その際、基部付近の葉も取り除きます。基部は節の箇所斜めにカットするなど学びました。

加工した挿し穂をバーミキュライトの苗床に斜めに植え付けていきました。  
植付けしてから2週間程度で基部が肥大し、発根が始まります。

この間の水管理が重要で、10～15分間隔で10秒間ミスト(霧)を散布していきます。



植付けの状態

今回の現地指導では、サルナシの栽培に取り組んでいる三好市山城町の農家さんを訪れ、栽培方法や実の活用法等についての指導、意見交換も行いました。



サルナシ栽培の農家さんと意見交換

徳島森林管理署では、今後農業や観光分野の関係機関・団体などにも参画していただき、将来にわたって架け替え資材であるシラクチカズラの安定的な確保と、その実を活用していくことで地域の振興にも資していきたいと考えています。